



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

# 標準化の普及活動について

2025年4月18日  
標準化推進部会  
普及推進委員会

# agenda

- 普及推進委員会ご紹介
- 2024年度の活動報告

# 普及推進委員会の体制

- 現場最前線にいる営業マンが医療情報の標準化に対する取り組みを理解し、積極的に提案できるよう普及活動を行う。

営業中心のメンバー構成（since2010）

富士通Japan(株)

日本電気(株)

(株)ソフトウェア・サービス

キヤノンメディカルシステムズ(株)

メディカルデータベース(株)

(株)アイセルネットワークス

タック(株)

(株)プラスメディ

(株)ヘンリー

三菱電機ソフトウェア(株)

(株)メディサーージュ

(株)メドレー

(株)TMJ

**委員会登録13社／アクティブメンバー4社（2023年）**

委員会への参加を呼び掛けた結果、登録社数も増えたが、新規アクティブメンバーが増えたことが大きな成果。

## 2024年度の構成メンバー

富士通Japan(株)

日本電気(株)

(株)ソフトウェア・サービス

キヤノンメディカルシステムズ(株)

(株)アイセルネットワークス

タック(株)

(株)プラスメディ

(株)ヘンリー

三菱電機ソフトウェア(株)

(株)メディサーージュ

(株)メドレー

(株)TMJ

日本事務器(株)

(株)シーイーシー

オムロン(株)

(株)日立製作所

NECソリューションイノベータ(株)

委員会登録 **17** 社

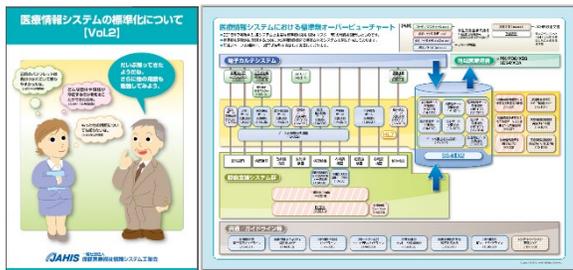
アクティブメンバー **6** 社

# これまでのアウトプット

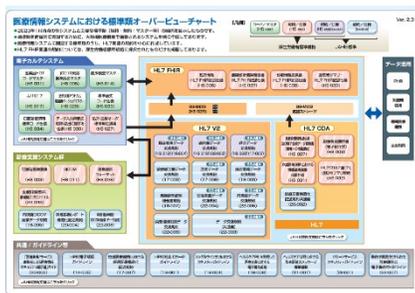
## 標準化パンフレット、オーバービューチャートの作成



2011年3月



2013年3月



2023年1月

## JAHIS営業向け 医療情報標準化セミナーの開催

### 第一回：2021年3月

1. 『医療情報標準規格ができるまで』 JAHIS普及推進委員会
2. 『医療情報の標準化』 JAHIS普及推進委員会
3. 『医療のICT関連の政策動向について』厚生労働省 井高様

### 第二回：2022年3月

1. 『なぜ標準化、なぜ FHIR、産業の立場から』JAHIS
2. 『医療情報の標準化とFHIRの動向』 東京大学 大江先生
3. 『医療の ICT 関連の政策動向について』厚生労働省 田中室長

### 第三回：2024年2月

1. 『なぜ標準化、なぜ FHIR、産業の立場から』JAHIS
2. 『医療機関におけるHL7 FHIRの取組みと展望』九州大学 山下先生
3. 『標準化が創る医療DX令和ビジョン2030』厚生労働省 新畑室長

	回数	第1回	第2回	第3回
参加者数	対面	-	-	15
	Web	137	281	290
	計	<b>137</b>	<b>281</b>	<b>305</b>
	前回比	-	205%	109%

# 2024年度の活動報告



# 普及推進委員会キックオフ

2024年8月21日、初参加メンバーを加えて対面にて開催。  
普及推進委員会で取り扱うテーマについて、ざっくばらんにディスカッションを行った。

## ■ アジェンダ

1. コンプライアンス宣言と自己紹介
2. 前回議事録内容の確認
3. 普及推進委員会活動について
4. 医療DX・JAHIS2030ビジョンについて

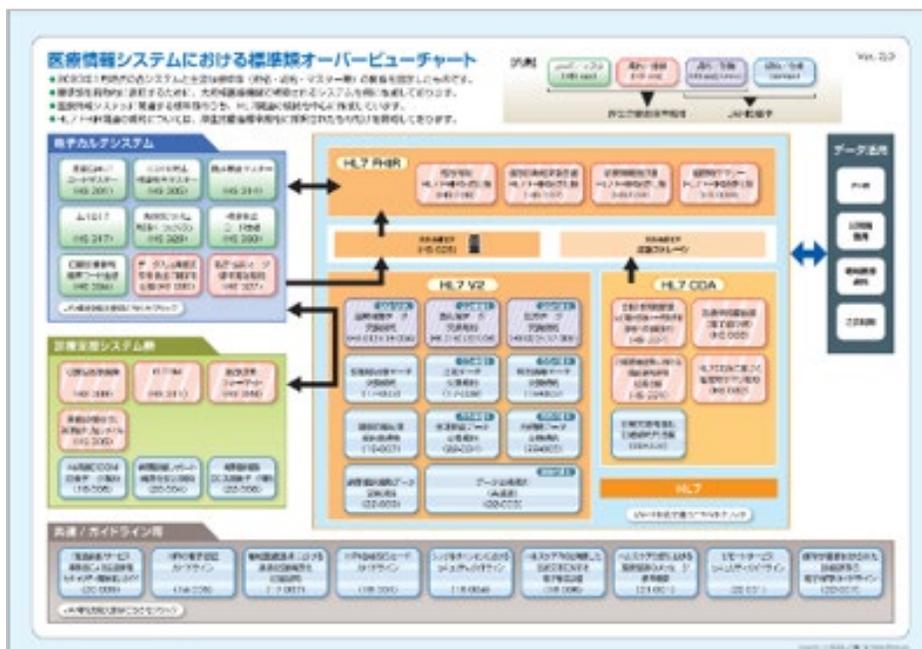
～休憩～

5. ディスカッション

- ・普及推進委員会活動について
- ・医療DX・JAHIS2030ビジョンについて
- ・ディスカッション

# これまでの普及推進活動について

標準化部会の中における、普及推進委員会の建付けや、2023年度の活動の振り返りなど



イベント配布用バーコード付帯

「JAHIS営業向け医療情報標準化セミナー」プログラム	
主催 (一社)保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS) 標準化推進部会、普及推進委員会	
◆司会進行	JAHIS標準化推進部会 普及推進委員会 副委員長 福岡 衛治
講演1 15:00~15:20	「なぜ標準化、なぜFHIR、産業の立場から」 塩川 康成 JAHIS医療システム部会 相互運用性委員会 IHE WG リーダ
講演2 15:20~15:50	「医療機関におけるHL7 FHIRの取組みと展望」 山下 貴範 九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター 九州大学 データ駆動イノベーション推進本部 健康医療DX推進部門 日本医療情報学会・理事、標準化維持管理部長
講演3 15:50~16:30	「標準化が創る医療DX令和ビジョン2030」 田中 彰子 厚生労働省医政局・特定医薬品開発支援・医療情報担当 参事官
質疑応答	16:30~16:50

営業向け医療情報標準化セミナー プログラム

# これからの普及推進活動について

医療情報システムは、院内から院外へ、そして社会全体へ

## 医療DX実現に向けた標準化の推進活動

標準化推進部会  
普及推進委員会 委員長  
(富士通Japan株)  
田中 宏明



### 1. はじめに

本年度より標準化推進部会 普及推進委員会の委員長を拝命しました、富士通Japanの田中宏明です。よろしくお願ひします。

私はこの普及推進委員会が2008年12月に発足した時より委員として活動に参加している最古参でもあります。第一回の普及推進委員会に参加していたメンバーが所属している企業は、富士通、NEC、NTT-DATA、日立、IBM、東芝住電、ソフトウェアサービスでした。当時は厚生労働省標準規格やJAHIS標準など多くの標準類が存在していましたが、あまり現場では使われていませんでした。そこで、「なぜ医療情報システムの世界では標準化が進まないのか」、「どうしたら、もっと標準規格が使われるようになるのか」、を徹底して議論するところから活動を始めました。そして、お客様である医療機関から標準化に準拠したシステムを要求されるのを待つだけでなく、各ベンダーの営業が積極的に標準化を提案できるようにするためのパンフレット(図1、図2)の作成や、セミナーの企画・実施をしてまいりました。



(図1) 厚生労働省標準規格や、HELICS、IHE-J、SS-MIXなどの用語解説



(図2) 標準規格ができるまでの活動をフローで表し、各種用語のカテゴリーも整理

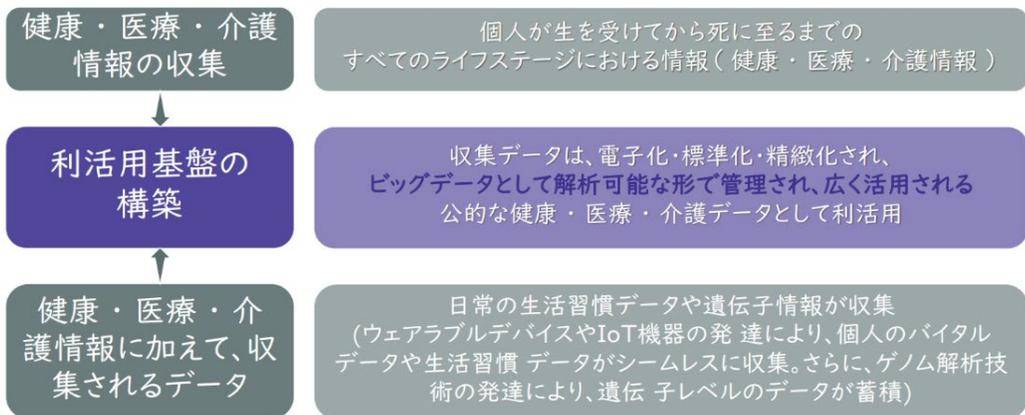
- 標準化の中心が、病院の中から社会全体へと広がり、ユースケースも多岐にわたるようになり、標準化の主戦領域が変わってきているため、普及推進活動もこれまでの活動形態の変革が必要
- 大規模医療機関の電子カルテだけでなく、中堅医療機関や診療所、薬局、健診施設、介護施設、行政など様々なプレーヤーをつなぐのに標準化はこれまで以上に重要
- 今年度は医療DX令和ビジョン2030を前提に今後整備されていく全国医療情報プラットフォームを中心にして、標準類の役割を整理するドキュメントの作成を計画
- 従来からの固定メンバーだけでなく、様々な立場の知見を持ったメンバーの参加が不可欠

# 医療DX政策動向・JAHIS2030ビジョン

事業企画推進室 新垣副室長による講演  
JAHIS2030ビジョンから、国策の最新動向について情報提供いただく。

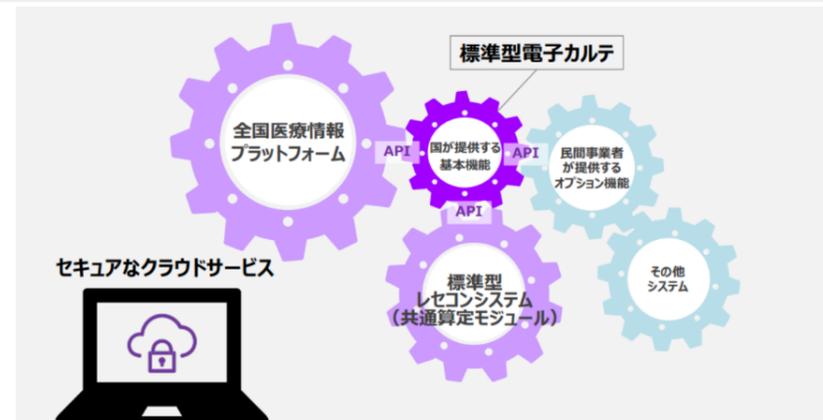
## 2030年にJAHISが目指すデータ循環型社会

### ヘルスケア情報データを活用できる基盤の構築



## システム構成・機能 標準型電子カルテシステム開発のコンセプト(案)

標準規格に準拠したクラウドベースでのシステム構成といたうえて、国が対象施設に共通した必要最低限の基本機能を開発し、民間事業者等が各施設のニーズに応じたオプション機能を提供できるような構成を目指す。



# ディスカッション

参加メンバー全員で、**標準化のメリットと必要性**についてディスカッションを行った。

標準化のメリット周知

現場やベンダーに標準化の利点を伝える。

現場の意見反映

現場の意見を積極的に取り入れる。

OVCの活用

OVCからリンクするだけでなく、OVC自体の活用についても議論が必要。

IT化・データ化

IT化、データ化を進めないと標準化は進まない。

多施設連携

多施設連携の場合には標準化の必要性が生じる。

薬局・クリニック連携

薬局やクリニックを含めた連携も視野に入れる。

地域連携の標準化

地域連携における運用を標準化することも重要。

標準化領域のマップ作成

標準化できそうな領域を明確にするためのマップを作成。

国策対応

国策への対応には併せて標準的な運用を定める必要がある。

OVCリニューアル

国策との整合性を図りつつ、技術的理解を深める資料として活用。

国策情報の活用

既存の国策情報をより活用しやすい形にする。

成功事例の提示

標準規格の成功事例を示し、メリットを明確化することで普及を促進。

認知度調査の参考

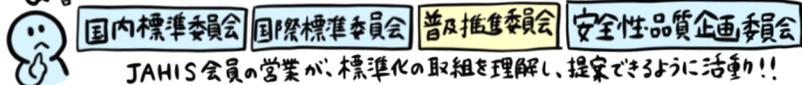
過去の調査を参考に、国策プラットフォームとの連携を示す。

OVCの現場活用状況把握

OVCの現場での活用状況を把握する。

## 普及推進委員会、こんな活動やっています

Q 普及推進委員会って? A.4つある委員会の1つです!

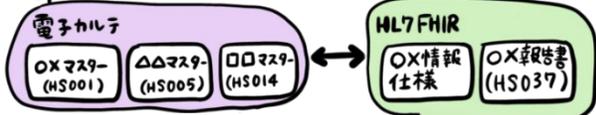


### 標準化セミナー開催

オンライン参加の割合が高い  
対面参加  
若手<ベテランの参加率が高かった

対面での出席率が課題  
セミナーは、FHIRの話題が中心

### オーバービューチャートについて(OVC)



各システムと主要な規格・マスターの関係性を分かりやすく図式化!

規約の中には、JAHISが作成し、厚労省の標準化に向けたもの!!

大規模・中堅病院、診療所、行政を含め様々な連携を実現するため、**標準化は必要!**  
本活動においても**様々な立場の知見を持ったメンバーに参加してほしい。**

標準化の普及による価値提供!  
標準化があるからこそ企業間の競争が成り立つ!

JAHIS普及委員会 委員長 富士通Japan 田中宏明

## 医療DX・JAHIS2030ビジョンについて

**JAHISとは** 1994年設立。医療福祉分野にて標準化された安全で高品質な情報システムの提供を目指す団体

**JAHIS2030ビジョン** 2030年までにヘルスケア情報データを活用できる基盤を構築し、「データ循環型社会」の実現を目指す。2019年に策定。ビジョンは、改定作業に向けた見直しを議論中。

経済財政運営と改革の基本方針 2024 (骨太の方針)

**骨太の方針** に内容を盛り込んでもらえるようにアプローチすることが重要!

国に予算化してもらうには、6月の骨太と意識して政策涉外!

今年度の骨太には、医療・介護DXの推進が盛り込まれている

つまり!  
電子カルテ情報の標準化と電子カルテの導入促進について何かしらの予算がつくことが読み取れる!

### 標準型電子カルテ a版



現在a版の開発中のb版をふまえて、本格版を!

標準型電子カルテのモデル事業も実施予定

戦略企画部 事業企画推進室 副室長 新垣淑仁

## ディスカッション

### 私の会社の標準化 (現状や取り組み)

- 資料フォーマットなどの標準化が進んでいる
- 社内で「標準化」が複数できてしまっている
- 標準化をしようとしても結局はケースバイケースだね、という結論になることが多い
- 研究機関では標準化意識が高いが、臨床現場は自由度が高いためギャップが存在する。

### 標準化を妨げていることは何? どうしたら普及する?

- 現場は標準化どころではない状況
- カスタマイズを重視してきた経緯があるため、利便性を超える標準化のメリットが明確になっていない
- 医療現場の運用や標準化の成功イメージが共有されていない
- ベンダ側のメニュー不足を感じる。研究の側面からは標準化を推進したいが、臨床側と調整が難しい部分があるので、そこをベンダから提案してくれると嬉しい。

### これから取り組みたいテーマ

- 個別最適から全体最適への転換を推進
- OVCの活用状況を調査する。
- PHR、災害対策、地域連携などを今後のテーマとする。普及推進委員会の役割を見直し、広く意見を収集する
- 費用面を工面する部分が難しいと感じるので、新垣さんのお話にもあったように骨太に提言できるようなことがあっても良いのでは?

# オーバービュー リニューアルに向けて

医療機関を取り巻く環境変化や政策動向をふまえつつも、オーバビューチャートをどういった目的や方向性で刷新するかについてディスカッションを行っている。（継続中）

データの利活用重視

交換規約のルールよりも、データの標準化、蓄積、流通、活用に焦点を当てるべき。

規約 vs 利用シーン

規約か利用シーンどちらをベースに考えるかで完成イメージが変わる。

ターゲットの明確化

誰に向けて、誰に活用してほしいのかを明確にして議論を進める。

外部連携の必要性

病院内だけでなく、外部との連携にも目を向ける必要がある。

目的・ユースケースの決定

目的、誰に向けて、ユースケースを決める。

既存規約のカテゴリ分け

既存の規約類をカテゴリ分けし、全体を俯瞰するための作成。

現場目線のメリット訴求

現場目線でのメリットを訴求しないと普及しない。

教育ツールとしての活用

営業や医療情報技師試験受験者向けの教育ツールとしても役立つ。

ベンダー向けの普及

ベンダーの営業やSEに役立つものにする。

医療機関・大学向け

仕様書を作成する医療機関や大学の方にも使えるものにする。

メリットの整理

各プレイヤーのメリットを整理して展開。

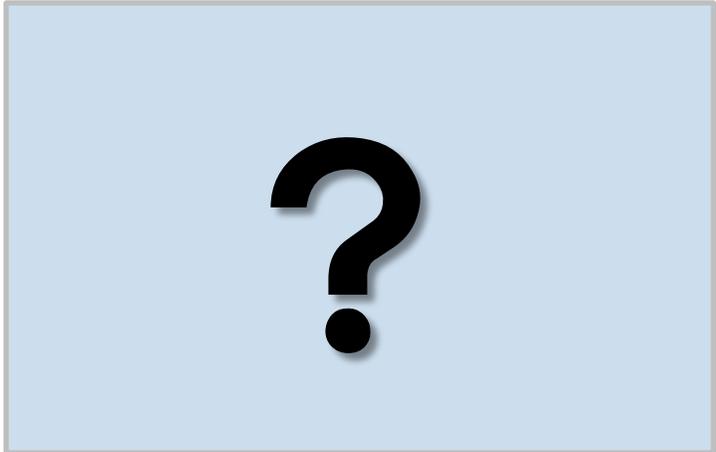
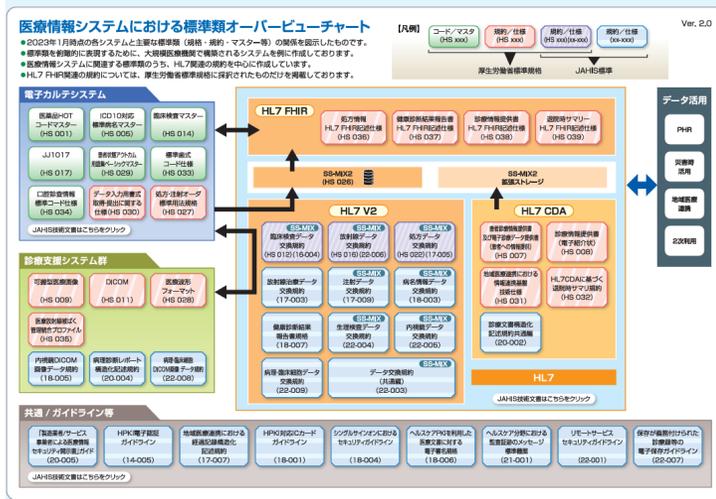
共通言語の見せ方

各プレイヤーの共通言語となるような見せ方を工夫。

医療DX施策との関連

規約が医療DXの施策の中でどのように広がるかを表現。

## 【OVC検討の方向性】



1. 目的と情報の整理:
  - OVCの目的を明確にし、どのような情報を扱うかを決定する。
2. データの利活用重視:
  - データの標準化、蓄積、流通、活用に焦点を当てる。
3. ターゲットの明確化:
  - 誰に向けて、誰に活用してほしいのかを明確にする。
4. 外部連携の強化:
  - 病院内だけでなく、外部との連携も視野に入れる。
5. ユースケースの決定:
  - 具体的なユースケースを設定し、それに基づいて進める。
6. 既存規約の整理:
  - 既存の規約をカテゴリ分けし、全体を俯瞰する。
7. 現場目線のメリット訴求:
  - 現場でのメリットを明確にし、普及を促進する。
8. 教育ツールとしての活用:
  - 営業や医療情報技師試験受験者向けの教育ツールとしても活用する。
9. ベンダー向けの普及:
  - ベンダーの営業やSEに役立つものにする。
10. 医療機関・大学向け:
  - 仕様書を作成する医療機関や大学の方にも使えるものにする。
11. 共通言語の見せ方:
  - 各プレイヤーの共通言語となるような見せ方を工夫する。
12. 医療DX施策との関連:
  - 規約が医療DXの施策の中でどのように広がるかを表現する。

# まとめ

➤ **標準化のメリットとは:**

標準化を普及するためには、標準化のメリットを理解してもらうことが重要

➤ **具体的なユースケースの共有:**

標準規格の理解を深めるだけでなく、具体的なユースケースを共有することが必要

➤ **オーバビューチャートのレイアウト:**

網羅性が高いデザイン。これが、難しい・・・



今後とも皆様方のご協力をよろしくお願いいたします



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

**ご清聴ありがとうございました**